

# 『悠久の栖』開設にあたり



理事長 村岡龍太郎



社会福祉法人  
寿星会

私たちが目指す施設介護は、「明・楽・活」にあふれた施設作りであります。「福祉は幸せ作り」です。人生を生き抜いてたどり着いた入居者、その肉親を預ける家族、そしてそこで働く職員が活気にあふれ、笑いがあり、悲喜交々が自然にある家庭的文化施設づくりを目指して行きたいと考えています。

私たちの仕事は、人間サービスです。命に寄り添い、命を見守り、命を見送る。老いるということ、病に伏せること、そして人間として最後を迎えることに私たちは命の尊厳を見つめながら、人間の生・老・病・死をサポートできる施設サービスでありたいと考えています。

私たちが目指すのは、地域福祉サービスであります。福祉は「地産地消」と考えています。住み慣れた土地、見慣れた風景、昔を語れる人々、そして何よりも家族が立ち寄り易いロケーション。

地域福祉施設として地域社会との交わりを大事にした利用者本位のサービスを希求するものであり、そのために地域サービス事業者との協調とネットワークを大事にしています。

私たちの目指すのは、人間としての尊厳のある施設福祉は人作りと考えています。「老い」は私たちもいつか行く道。スキルの向上より仲間と共に人間として成長をしていく事が出来る職場環境づくりが最も大切だと考えています。

「福祉は人間づくりです」施設で働く職員一人一人が自らの人間性を磨き成長することのできる職場づくりを目指します。施設に働く職員が日々職場を教育の場として、人間としての知・情・意を磨ける職場環境づくりです。

そして私たちが目指す高齢者福祉サービスは、本法人の名称のごとく「寿星」、老いて輝く星になる老人観・人間観を施設の職員の指針として、利用者が利用者の自然の生活リズムで送ることのできる施設作りを理想とします。

私たちの施設は、理念を大事にします。私たちの施設は人間を見つめます。この土地で利用者の「悠久の栖」としての施設作りを目指して運営をしていきたいと考えます。

平成25年9月1日  
理事長 村岡龍太郎

社会福祉法人  
寿星会

## 中期ビジョン (施設をコアとした地域福祉計画)

